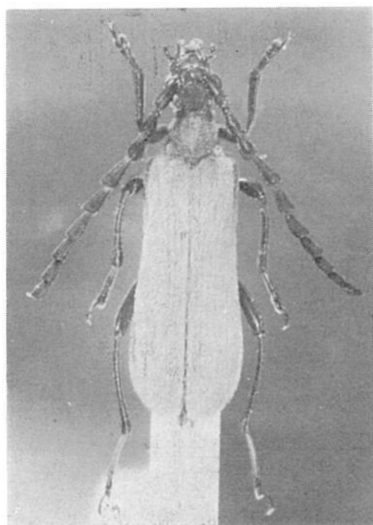


沖縄本島でアマミアカハネハナカミキリを採集 豊嶋 亮司

アマミアカハネハナカキキリ *Formosopyrrhona satoi* (HAYASHI) は、従来奄美大島および徳之島に分布することが知られていたが、筆者は沖縄本島で本種を採集したので、ここに報告しておく。



1 ♀, 沖縄本島国頭郡奥1号林道, 2. iv. 1978

奥1号林道最奥部に新しく切り開かれた斜面の伐採地で飛翔中のヒメクロトラをすくっていたところ、上緑の林中を縫うように飛翔していた個体を採集した。天候は快晴であった。

末筆ながら、発表を勧められた藤田宏氏ならびに写真撮影に御協力いただいた湯沢宣久氏に感謝申しあげる。

(〒462 名古屋市北区下飯田町 4-11)

トワダムモンメダカカミキリの北限記録

今坂 正一

トワダムモンメダカカミキリ *Stenhomalus lighti* GRESSITT の北限記録として、利尻島における採集例を報告しておく。従来の北限は札幌市周辺。

1 ex., 利尻岳, 28. vi. 1975, 今坂正一採集
花上にて採集したものである。

1975年6月26~28日における採集で本種の他に、ホクチチビハナ (1 ex., 鴛泊, 26. vi), チビハナ (2 exs., 利尻岳, 28. vi), シナノクロフ (1 ex., 鴛泊, 26. vi; 3 exs., 姫沼, 27. vi; 1 ex., 利尻岳, 28. vi), アカガネ (1 ex., 利尻岳, 28. vi), ヒゲナガモモプト (1 ♂, 利尻岳, 28. vi), ハンノアオ (1 ex., 利尻岳, 28. vi)

などのカミキリを採集しているが、チビハナ・シナノクロフ・ヒゲナガモモプト・ハンノアオの4種は利尻島初記録種と思われる。

(〒855 島原市白土町 1064)

沖縄本島における カミキリ3種の生態について

小笠原 隆

1. ツマグロアメイロカミキリ

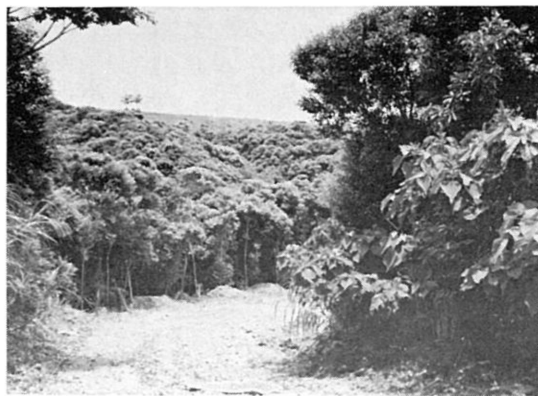
Pseudiphra apicale (SCHWARZER)

1 ex., 国頭村奥, 17. v. 1976; 13 exs., 国頭村辺土名, 20, 22. v. 1976; 7 exs., 国頭村辺土名, 22, 24. v. 1977

本種はこれまで花上にて稀に採集される以外、特に採集方法が知られていなかったが、筆者はアカメガシワの生葉に飛来するという生態を発見して、上記のように採集することができた。

本種が集まる木には、1) 林縁にあって直射日光が長時間当たらないこと、2) 背たけ1m程度の小木であること、3) 周辺のアカメガシワの花が散っているのに、その木だけは少し散り残っていること、など特定の条件があるようで、本種の来集を認めた木は、たくさんあるアカメガシワの中で僅かに3本であった。1976年に渡島した際には、辺土名の裏山にて2本の本種が集まるアカメガシワを見つけたが、翌年にはその2本はいずれも上記の条件を満たすことのできない状態となっており、1頭も見つけることができなかった。そこで、付近を丹念に探した結果、条件に合う1本のアカメガシワを見つけ、前年同様に本種の飛来を認めることができた。

1977年の例では、まず葉の表に飛来し、次に葉裏にまわって先端部まで進み、そこで静止していたが、1976年



ツマグロアメイロの多かったアカメガシワ (右側の低い木)
(沖縄本島辺土名)